令和８年９月 長浜市教育委員会定例会　会議録

Ⅰ．開催事項

１．開催日時

令和８年９月１７日（木）　午後３時３０分 ～ 午後４時２６分

２．開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町６３２番地　長浜市役所５階）

３．出席者

教育長	織田　恭淳
委　員	前田　康一（教育長職務代理者）
委　員	兼子　貴絵
委　員	前川　加奈子
委　員	押谷　喜美子
委　員	上田　祐樹

４．欠席者

なし

５．出席事務局職員

教育部長	宮川　芳一
次長	北村　充生
教育総務課長	服部　稔
教育改革推進課長	長屋　光彦
教育指導課長	細江　秀樹
学校給食課長	隼瀬　大典
幼児課長	藤田　哲夫
教育センター所長	東野　裕賢
教育総務課長代理	石田　剛寛
教育総務課副参事	辻　直也
教育総務課主査	五十嵐　亮平

６．傍聴者

１名

Ⅱ．会議次第

１．開　会

２．議　事

日程第１　会議録署名委員指名

日程第２　会議録の承認

日程第３　教育長の報告

日程第４　議案審議

議案第３０号　長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針の策定について

議案第３１号　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

日程第５　協議・報告事項

協議・報告①　長浜市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について

日程第６　その他

３．閉　会

Ⅲ．議事の大要

１．開　会

教育長から開会宣言があった。

２．会議録署名委員指名

押谷委員、前川委員

３．会議録の承認

８月定例会

特に指摘事項はなく８月定例会の会議録は承認された。

４．教育長の報告

教育長：

一点目は９月定例月議会の一般質問の答弁についてです。いくつかの質問のうち「体育館の空調設置について」は、今年度は室内で熱中症の症状が見受けられた児童・生徒が倍増としたことを踏まえて、長い時間を子どもたちが過ごすことになる普通教室、特別教室の空調更新を優先して進めたいところですが、それに並行して体育館の空調設置についても防災危

機管理局と避難所機能としての側面を協議のうえ早期に取り組んでいきたいということをお答えさせていただきました。「教員の働き方等について」は、特に講師の充足等が非常に困難な状況であるということを議会の答弁を通じて改めて市民の皆様にお知らせさせていただきました。教員の時間外勤務削減に関する取組みについては、他自治体に比べてＩＣＴ環境の整備は進みつつありますが、これを時間外勤務の削減に繋げるためには教員の活用の意識をもう一歩前に進める必要があるということをお答えさせていただきました。

二点目は、先日の学校訪問の感想についてです。小学５年生の授業の中で、ブラインドタッチを習得している児童がおり、話を聞くと小学１年生からＰＣを使用し小学校３年生からブラインドタッチが出来るようになったと聞きました。改めて、児童の学習能力を伸ばしやすい時期を逃さないように様々なものを体験させることは大切なことであると感じた一方で、スウェーデン等で就学前からＩＣＴの活用を進めていた教育政策を転換しアナログに戻している事例もありますので、そのようなエビデンスを探り児童・生徒の最も適切な時期というものを判断しながら学びを支えていきたいと思いました。また、文部科学省とタッグを組んで実施しているＡＩを活用した小学６年生の授業を参観しました。内容は、推しの武将を自分で決めてＡＩで調べた内容を友達と意見交換をしながら発表していくという流れで進められ、ある児童に「この、ＡＩがもしフェイクだったらどうする。」という質問を投げかけたところ、ＡＩで調べた内容を鵜呑みにすることなく本等でも確認をして意見交換をしていると聞きました。これまで私は、情報リテラシーを学ばせてからＡＩを活用させるほうが良いのではと考えていましたが、児童がＡＩを活用しながら情報リテラシーを学んでいる光景を見ていますと、文部科学省が教員に対して「ＡＩはまず使ってみてください。」と言っている意味が良く分かりました。今後、指導要領にもＡＩに関する内容が盛り込まれていくと思いますので、授業研究をより進めていく必要があるなと感じました。

三点目は夏休みの自由研究についてです。今年度は研究のための費用を補助するサイエンス賞を設けたところ、理科の自由研究の提出量が大幅に増加しました。その中で感銘を受けた研究を紹介します。小学校２年生の児童で「お父さんと一緒にお風呂に入るとジャバっとお湯が流れてしまうのはなぜか。」という研究テーマでした。その児童は当初、体重が重いことが要因と予想したうえで、ペッドボトル等の様々な物をお湯に沈め実験していくという流れで進められ、予想・実験・考察の過程が素晴らしくとても上手にまとめられていました。校長に話を聞くと、一枚のシートを使って「まずは自分で考える。」「調べる。」「答えを求めていく。」このようなことを授業に取り入れていると聞きまして、その児童は授業で学んだことを実践しているのだなと改めて感心しました。学力向上推進会議では、長浜スタイルの形だけで中身を理解して授業を展開しているのかという反省が多くでていますが、少しずつですが教員に長浜スタイルの中身を伴った授業の展開が広がっているのかなと実感しま

した。

５．議案審議

議案第３０号　長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針の策定について

教育長は事務局に説明を求め、教育改革推進課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：

総務教育常任委員会で特認校制度の説明が分かりにくいというのがありましたので、もう少し具体的な内容を注釈に加えてください。

教育改革推進課長：

承知しました。

押谷委員：

パブリックコメントは２６名から５３件と説明がありましたが。１名あたりの質問数の最大を教えてください。

教育改革推進課長：

正確には今答えられませんが、１０件程度だったと記憶しています。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

議案第３１号　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

教育長は事務局に説明を求め、教育総務課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

上田委員：

所見にありますとおり、児童・生徒の自分の身を守るための危険を予知する力が減ってきているということに関して、本日の研修でも学校設備を拝見しましたが、家庭科室では火を使わないＩＨ設備になっているだとか、マラソン大会等の長距離走の減少など、働き方改革の流れも相まって学校の授業の範囲内で危険を伴わないような授業構成となってきているなと感じています。

教育指導課長：

体力づくりに関しては、県から今年の秋から冬にかけて各校必ず目標をもって取り組むよ

うに指導があり１０月の校長会で伝達する予定です。
教育長：
４、５歳に関しては県平均よりも良い数字が出ており成果があがっています。幼少連携においてこれを繋いでいただくようお願いします。
前川委員：
４、５歳に関して成果があがっているということで、具体的にどのような体力づくりの取組みをされていますか。
幼児課長：
一例になりますが、園庭づくりの際に園児が遊びを主体的に考えられるように、古いタイヤ同士に木の板をかけて渡れるようにしているものをあえて固定せず、園児が日によってレイアウトを変えられるようにしている園もあり、タイヤにかけている木の板を運ぶというような、遊びの準備の中で自然に鍛えるような仕組みづくりに取り組んでいます。
教育長：
従前までの運動プログラムの中の「させる運動」から転換をさせて、築山の登り降り、穴を掘る、砂場を工夫するなど全身を使った作業による体力づくりに取り組んでいます。
前川委員：
家庭科室のＩＨ設備化は安全の配慮に関しては素晴らしいと思いますが、危険予知能力の向上に関しては弊害がありそうで、一長一短があるようで難しいですね。
上田委員：
ガスの匂いも分からなくなってしまうような。東京都では児童が負傷した火災もありました。
押谷委員：
全国学力・学習状況調査の質問項目のうち「自分には良いところがある」という設問に肯定的に答えている人数について、ここ何年かは一定の水準ですが、さらに上げるための工夫は既にされていると思いますので、点数として見えない部分において児童・生徒の力は備わりつつあるのかなと期待しています。自信を持って、自分でチャレンジしていけるための体力づくりというのも、元気に快適に生きていくための心の状態を作る教育だと思いますので、ますます発展していけるといいなと思いました。
教育長：
学力の向上に関しては、少人数授業を習熟度別に分けることに抵抗をもっている教員もいます。本市の場合、低位層が非常に多いのでそこへの手立てとして、低位層に時間と手間をかけてやりたいとするならば少人数で分けざるを得ない。しかし、教員によっては何らかの心理的な壁があるというところで、今、学校は悩んでいるようです。市の非常勤講師、県の

少人数加配等により手立てはしていますが、このことに関して教育指導課の感想をお願いします。

教育指導課長：

今までは、小学低学年のうちに学習をしっかりと身に付けてほしいという思いで少人数加配を低学年に配置をしていたところですが、園小連携によるカリキュラムの改善もあり１学期である程度身に付いているという状況も見受けられますので、少人数加配をできる限り高学年に配置できるような支援をしていただくように学校にお願いをしています。

押谷委員：

習熟度別により、問いに対する正解が多くなることで児童の自信や喜びに繋がると思います。教員には抵抗があるようですが、児童にはとってはあんまり抵抗がないのではないでしょうか。

前川委員：

習熟度別の分け方について、児童が自覚している状況と教員の児童に対する学力の状況、それぞれの認識を一致させるような形で分けられていますか。

教育指導課長：

友達関係で選んでしまっている児童もいるのが実情です。やはり自分に合ったところで学んだ方が良いと思いますので、児童たちに少人数にする意図を説明しないといけないと思います。

教育長：

教員は保護者さんにも気を遣うようです。

兼子委員：

数年前に比べ、自ら学びを追及する児童が増えてきている印象で、子どもたちの意識と長浜スタイルの考え方が一致してきていると感じています。世間体のようなものを気にされるのではなく、子どもたちの状況に合わせた必要な学びを手に入れていくという世の中の流れが、うまく保護者さんに伝えられるとより良い方向性になるのかなと思いました。また、デジタル化について、本案件の資料もＰＣで供覧されていますが、ＰＣ上で資料を確認する場合、私たちの世代では、内容を理解するのに時間がかかってしまう印象があります。幼い頃からデジタル化に慣れ親しんでいる子どもたちとアナログに慣れ親しんだ後にデジタルに対応している大人では、頭の整理の仕方に違いが出来つつあるのではないかと感じています。やはりデジタルというのはツールの一つであって、音楽に例えると、音楽の一瞬の感覚等はデジタルでは深められませんが、曲について調べたいとした場合ＡＩの登場によってより知識が深められるようになりました。ＡＩによって教育現場が変化していくと思いますが、ツールとして正しく利用することで、教員も子どもたちもより自ら学びを得られる環境にな

ると良いなと思いました。
教育長：
　来年度から全国学力・学習状況調査もタブレット端末で回答する形式に変わります。児童・生徒たちが、タブレット端末で問題を確認してしっかりと思考が確立できるか心配しているところですが、今年度なにか手立てをしていますか。
教育指導課長：
　中学校の英語は今年度からタブレット端末で回答する形式に変わりました。学校には事前に生徒たちに一度は練習してもらうようにお願いしましたが、国語をタブレット端末で回答するとなると画面をスクロールしながら文章を読み取り回答を考える思考が必要となります。
教育改革推進課長：
　本市が導入しているＡＩ型のドリルソフトキュビナにはＣＢＴテスト機能があり、全国学力・学習状況調査と同じような形式でテストが可能です。やはり使用をして慣れていく必要がありますので、当課から学校に活用していただくように周知していきます。
教育長：
　伴走支援をよろしくお願いします。
前田委員：
　毎年、意見をさせていただいていますが、事務の点検・評価については、令和７年度事務事業を今評価していますが、既に令和８年度が半年も進んでいます。評価の結果を、これから反映していくようなサイクルで本当に良いのか、疑問に思っています。
教育長：
　教育指導課はどのように感じていますか。
教育指導課長：
　例えば、全国学力・学習状況調査については、第３期教育振興基本計画上で毎年０．５％ずつ上げていくという目標を掲げていますが、この当初の目標に対しての評価をしていますので、評価の結果によって目標を見直し、見直した目標に対して評価するような仕組みも必要だと思っています。
前田委員：
　結果、現実的ではない目標に対しての評価となっています。計画に目標を設定している以上、適宜、目標を修正し評価をすることは難しいと毎年聞いていますが、今年も意見をさせていただきます。

　その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

６．協議・報告事項

協議・報告①　長浜市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について

教育長は事務局に説明を求め、学校給食課長から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり

教育長：

ＰＴＡをなくした学校もありますので、状況を注視したうえで適宜規則等の見直しを検討してください。

７.その他

なし

８．閉会

教育長から閉会宣言があった。

会議録署名人

令和　　年　　月　　日